

食費・部屋代の負担軽減〈介護保険負担限度額認定証〉

●内 容

施設入所及び短期入所（ショートステイ）利用時の食費・部屋代については、通常、全額自己負担となりますが、所得の低い方のサービス利用が困難にならないよう、世帯（※1）・本人の所得に応じた負担限度額が設けられ、自己負担が軽減されます。

●利用の流れ

区役所保険年金課へ申請し、「介護保険負担限度額認定証」の交付を受ける必要があります。  
介護保険負担限度額認定証を施設に提示することにより、食費・部屋代が段階に応じた下表「負担限度額（日額）」の金額に軽減されます。

【負担限度額認定の申請時に必要なもの】

- ・被保険者及び配偶者（配偶者がいる場合）の預貯金通帳等の資産を確認できる書類
- ・介護保険証

●対象となるサービス

- 施設サービス（特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・介護医療院）
- （介護予防）短期入所生活介護 ●（介護予防）短期入所療養介護

負担限度額（日額）

| 段階    | 対象者                                                                                                                                    | 部屋代                                                 |       |             |                 |             | 食費     |        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------|-------------|-----------------|-------------|--------|--------|
|       |                                                                                                                                        | 多床室                                                 | 従来型個室 |             | ユニット型<br>個室的多床室 | ユニット型<br>個室 | 施設入所   | 短期入所   |
|       |                                                                                                                                        |                                                     | （特養等） | （老健・介護医療院等） |                 |             |        |        |
| 第1段階  | ・生活保護等を受給されている方<br>・市民税非課税世帯 <sup>※1</sup> で老齢福祉年金を受給されていて本人の預貯金等 <sup>※2</sup> の合計額が1,000万円(配偶者がいる場合は、夫婦の合計額が2,000万円)以下の方             | 0円                                                  | 380円  | 550円        | 550円            | 880円        | 300円   | 300円   |
| 第2段階  | 市民税非課税世帯で、本人の「公的年金等収入額と非課税年金収入額とその他の合計所得金額 <sup>※3</sup> 」の合計が年間80万円以下 <sup>※4</sup> で、本人の預貯金等の合計額が650万円(配偶者がいる場合は、夫婦の合計額が1,650万円)以下の方 | 430円                                                | 480円  | 550円        | 550円            | 880円        | 390円   | 600円   |
| 第3段階① | 市民税非課税世帯で、本人の「公的年金等収入額と非課税年金収入額とその他の合計所得金額」の合計が年間80万円超 <sup>※4</sup> の120万円以下で、本人の預貯金等の合計額が550万円(配偶者がいる場合は、夫婦の合計額が1,550万円)以下の方         | 430円                                                | 880円  | 1,370円      | 1,370円          | 1,370円      | 650円   | 1,000円 |
| 第3段階② | 市民税非課税世帯で、本人の「公的年金等収入額と非課税年金収入額とその他の合計所得金額」の合計が年間120万円超で、本人の預貯金等の合計額が500万円(配偶者がいる場合は、夫婦の合計額が1,500万円)以下の方                               | 430円                                                | 880円  | 1,370円      | 1,370円          | 1,370円      | 1,360円 | 1,300円 |
| 第4段階  | 上記以外の方                                                                                                                                 | ・第4段階には負担限度額が設けられていません。<br>・食費や部屋代は施設との契約によって決まります。 |       |             |                 |             |        |        |

※1…世帯 本人が属する住民基本台帳上の世帯(配偶者が別世帯にいる場合、その配偶者を含めます)。  
※2…預貯金等 第2号被保険者は段階に関わらず1,000万円(配偶者がいる場合は2,000万円)以下  
※3…その他の合計所得金額 情-7ページ「保険料について」の※3を参照してください。  
※4…令和7年8月以降は80万9千円

国の定める基準費用額（日額）

|             | 部屋代            |                              | 食費     |
|-------------|----------------|------------------------------|--------|
|             | 令和6年8月から       | 令和7年8月から                     |        |
| 多床室         | 特養等 915円       | 特養等 915円                     | 1,445円 |
|             | 老健・医療院等 437円   | 老健・医療院等<br>(室料を徴収する場合) 697円  |        |
|             |                | 老健・医療院等<br>(室料を徴収しない場合) 437円 |        |
| 従来型個室       | 特養等 1,231円     | 特養等 1,231円                   |        |
|             | 老健・医療院等 1,728円 | 老健・医療院等 1,728円               |        |
| ユニット型個室的多床室 | 1,728円         | 1,728円                       |        |
| ユニット型個室     | 2,066円         | 2,066円                       |        |

## サービスの利用者負担について .....

### ●負担限度額第4段階の方の特例〈課税層に対する特例減額措置〉

2人以上の世帯(※<sup>1</sup>)において、介護保険施設または地域密着型介護老人福祉施設へ入所(ショートステイは対象外)し、下表の要件をすべて満たす場合には、申請により第3段階②の負担限度額が適用されます。詳しくは区役所保険年金課にお問合せください。

| 特例減額措置の対象要件                                                                                                                                                                                                                      | 特例減額措置の内容                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| ①第4段階の食費・部屋代を負担すること<br>②世帯の公的年金等収入額(※ <sup>2</sup> )とその他の合計所得金額(※ <sup>3</sup> )の合計から施設の利用者負担(自己負担、食費・部屋代の年間見込額)を除いた額が80万円(※ <sup>4</sup> )以下であること<br>③世帯の預貯金等の合計が450万円以下であること<br>④日常生活に供する資産以外に活用できる資産がないこと<br>⑤介護保険料を滞納していないこと | 左の要件の②に該当しなくなるまで、食費もしくは部屋代、またはその両方について、第3段階②の負担限度額を適用します。 |

※<sup>1</sup> 世帯…配偶者が別世帯にいる場合、その配偶者を含めます。また、施設入所により世帯が分かれた場合も同一世帯とみなします。

※<sup>2</sup> 公的年金等収入額…**情-7** ページ「保険料について」の※<sup>2</sup>を参照してください。

※<sup>3</sup> その他の合計所得金額…**情-7** ページ「保険料について」の※<sup>3</sup>を参照してください。

※<sup>4</sup> 令和7年8月以降は80万9千円

### 食費・部屋代の差額の払戻し

介護保険負担限度額認定証を、やむをえず施設へ提示できず、「負担限度額」を超えて、「国の定める基準費用額」を超えない金額で支払いをした場合には、申請に基づき、差額の払戻しを受けることができます。詳しくは区役所保険年金課にお問合せください。

※「負担限度額」及び「国の定める基準費用額」については**情-36** ページの表を参照してください。

※支払った金額が「国の定める基準費用額」を超える場合は、差額の払戻しができません。

また、施設への支払いから2年を過ぎると申請ができなくなりますので、ご注意ください。

### 【差額支給の申請時に必要なもの】

・介護保険証 ・食費・部屋代の領収書 ・印鑑（朱肉を使うもの） ・振込先口座の確認ができるもの